

三共精粉



植木弘之社長

三共精粉は、重質炭酸カルシウムの付加価値化を加速する。超微粒子タイプの新製品では無機系フィラーの代替需要を狙い、紙おむつ向けでは2017年に月産1400ト体制の構築を目指す。

同社は1943年創業の重質炭酸カルシウムメーカー。良質な白色結晶性石灰石が採れる岡山、福島、山口に鉱山を有し、採掘から粉砕、分級、配送まで一貫体制を敷いている。主にフィラーや白色顔料として住宅資材向けなどに展開している。

ただ、国内の既存事業領域

超微粒子品の事業化急ぐ

の需要は減少する見通し。このため昨年、井ノ口工場（岡山県新見市）の新プラントに導入した粉砕と分級の一体設備を駆使し、粒径1 μ m以下の超微粒子を開発した。フィラーや加工性向上に使われる酸化チタンや沈降性硫酸バリウムの一部を置き換えればコ

に使用される粒径約1.5 μ mの微粒子タイプ「エスカロン」は、既存ラインに分級機を追加し、17年までに井ノ口工場の月産能力を現行の450トから600ト、営業工場（福島県田村市）は現在の倍の同800トに向上させる。

東南アで食添用途拡販

スト低減に寄与できるとして提案を開始。今夏には30立方 μ mの製品タンクも設置し、事業化を急ぐ。また複数の無機フィラーでセルロースを処理してセルロースの凝集を防ぐ研究も進めており、自動車部材への供給を想定している。

海外事業では、塗料向けが多い中国拠点は安定経営を継続。また、井ノ口工場はハラル認証を取得しており、東南アジアで需要が見込める食品添加物用途で拡販していく。

近年の成長ドライバーである紙おむつの通気フィルム